

「石炭火力発電所建設を考える女性の集い」へのお誘い

子どもたちを守りたい！袖ヶ浦の緑を・海を・大気を汚染から守りたい！

今袖ヶ浦で石炭火力発電所建設の計画が進んでいます。7月には環境アセスメント最終段階の「環境影響評価準備書」が完成する予定です。ここだけではありません。袖ヶ浦には100万kw 2基、蘇我と千種海岸に1基ずつ計4本の巨大な煙突が立ち、1基年間320万トンの石炭を燃やし排煙を噴き出します。(市原の場合経産省審査書掲載) 私たちは、「熱源である石炭を変えてほしい」と願います。その理由や、石炭火力の場合どのようなことが心配されるのか・・・そんなことを、子どもの命を守り育てる女性の立場から考えてみたいと思うのです。気楽なご参加を・・・お誘いです。

日時 2017年3月18日(土)午後2時～4時

会場 袖ヶ浦市民会館2F「市民フリールーム」

講師 平田 仁子さん(NPO法人気候ネットワーク)

演題 **私たちや子どもたちにどんな影響があるの？**

袖ヶ浦に建設予定の石炭火力発電所

◎ 平田さんは、なぜ石炭火力が問題になっているのかということ豊富な資料を使ってやさしく、わかりやすく話してください。そしてきっと「私たちはどうしなければならないのか」を考えさせてくれるでしょう。「目からうろこが落ちたようね・・・」というのが参加者の感想です。 連絡先 葛原朋子(63-1449) かわかみひろし(62-2016)

★ PM2.5??何のこと?
★ なんで石炭が悪くて、ガスならいいの?原発なら^今解っているけど
★ パリ協定って何のこと?

★ 地球温暖化でどうなるんでしょう
★ 海水温が上がっているんだって・・・
★ 海苔も全滅??
★ これからどうなるんでしょう?



「石炭火力発電所建設を考える女性の集い」実行委員会

発行者 関 巖 発行日 2017/2/25
事務局 葛原 朋子 かわかみひろし

子どもたちの歓声は未来への音楽です。

自宅の前に小公園があり、暖かい日など保育所の子どもたちが、年少組はトロッコを子供用に作ったような台車に乗せられ、年長組の子はもう 2 列にきちんと並んで、手をつなぎながらやってきます。保育士のお姉さんたちは、要所要所にいて、子どもたちの安全を見守りながら、手をつなぎ、歌い、笑顔で、しっかりと見守っています。

都会で、保育所建設に対し、地元住民の反対運動が起きている記事が時折新聞に載ります。私にはその理由がどうしてもわかりません。子どもたちの明るく、にぎやかな声を「未来の音楽を聴くようだ」と言った方がいます。まさにその通りだと思います。子どもたちの遊んでいる姿を窓から眺めていると、本当に心が和むのです。

この子たちが、小学校に入る頃・・・あと 7 年後には、市原に石炭噴煙の煙突が建ち、続けて袖ヶ浦、蘇我と 4 本の煙突が立ち並びます。もくもくとあの黒い石炭噴煙が噴きあがり、地上に降り注ぐのです。今 85 歳の私は、そのころまで生きている自信はありません。生きている間に、この青い空が汚れることを、少しでも止めることはできないのかと願います。

下の図を見てください。これは、今ネットで見ることのできる、蘇我火力発電所建設計画「計画段階環境配慮書」に掲載されている二酸化硫黄の拡散予測図です。半径 20 km 内の図面ですが、袖ヶ浦もそっくり入っていて、全面的に覆われています。

市原の硫黄の拡散図も、袖ヶ浦の図面もみな同じです。つまり 3 か所から出る噴煙の広がりも 3 層になって、袖ヶ浦を覆うことになります。想像できますか??? 硫黄だけではなく光化学オキシダント・PM2.5・二酸化窒素・一酸化炭素・浮遊粒子状物質 (SPM) といろんな有害物質が、3 層になって降り注ぐのです。そんな空にたくない。そう思いませんか?

美しい袖ヶ浦の空を!
海を!



市民が望む政策研究会ブログ
「石炭火力発電所問題特集」から

第 4.3.1-3 図(3) 二酸化硫黄の地上寄与濃度の予測結果
(石炭専焼時, C 案: 230m 煙突)

